

# ～ICT活用を実践・研究する先生応援プロジェクト～

令和3年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：学校でのICT活用を促進する産学官連携に関する研究

—ICT活用を実践・研究する先生応援プロジェクト—

研究代表者：ソフトウェア情報学部 准教授 高木正則

課題提案者：岩手県教育委員会事務局学校教育室 重浩一郎

技術キーワード：ICT活用, 教育, 授業・校務, 産学官連携

## ▼研究の概要（背景・目標）

岩手県はICT活用指導力に係る研修受講割合と、民間企業等の支援を受けて教職員がICT活用を研究する取組が全国最下位であった（図1）。学校でICTを活用できる指導体制を整備するためには、研修の充実に加えてイノベーターとなる「突き抜ける意欲のある教職員」への支援の両輪が重要である。

本研究では、岩手県の学校におけるICT活用に係る現状を調査・整理し、特にICT活用意欲の高い教職員に対する民間企業の技術や資金の提供、大学の研究成果の地域社会への還元など、産官学連携による教育現場のICT活用の支援のあり方を探るものである。

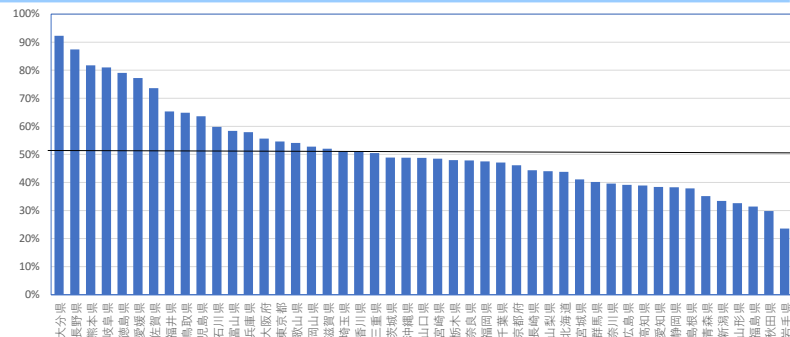


図1 ICT活用指導に関する研修を受講した教員の割合  
(出典:学校における教育の情報化の実態等に関する調査(文部科学省))

### <先端ICT>

1. センシング, 2. AR・VR, 3. CBT, 4. デジタルドリル,
5. 学習マネジメントシステム, 6. 学習者用デジタル教科書・教材,
7. 学習支援ツール, 8. Web会議システム, 9. AI, 10. データマイニング

## ▼研究の内容（方法・経過）

1. 調査対象：岩手県の教職員(回答数：282人)
2. 調査内容：教職経験に関する質問（年数, 校種, 教科等）, 教育現場でのICT活用に関する現状・今後の活用意欲, ICT活用を相談する相手等に関する56項目を調査。
3. 調査期間：令和3年2月25日から3月21日まで

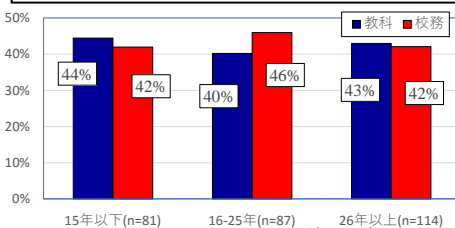


図2 ICTを活用したいと回答した割合 (教職経験別)

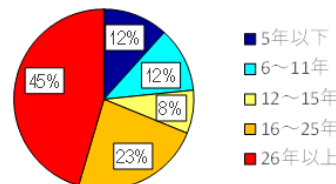


図3 先端ICT活用者の教職年齢構成

## ▼研究の成果（結論・考察）

1. ICT活用意欲は、校務別、教職経験別に大きな差はなかったが(図2)、実際に先端ICTを活用している教職員は教職経験年数が長いベテランの割合が大きい(図3)。
2. 先端ICTに興味はあるものの、実際に利用しているのはWeb会議システムを除けば5%以下であった(図4)。
3. 先端ICT未活用者は、同僚やICT支援員など学校内での相談割合が高いが、先端ICT活用者は学外有識者への相談割合が未活用者に比べて高い(図5)。
4. 先端ICT活用者であっても、外部支援制度について知らない人が半数を超えていた(図7)。

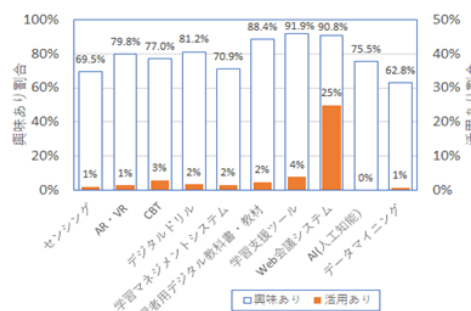


図4 先端ICTに興味あり・活用ありと回答した割合

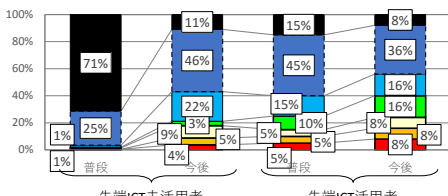


図5 普段誰と相談しているか、今後誰と相談したいか

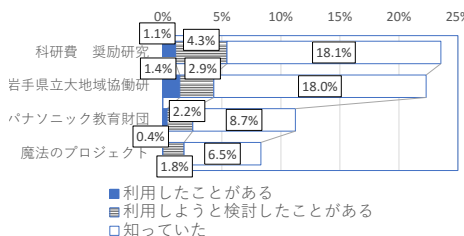


図6 ICT活用外部支援制度の認知・利用度

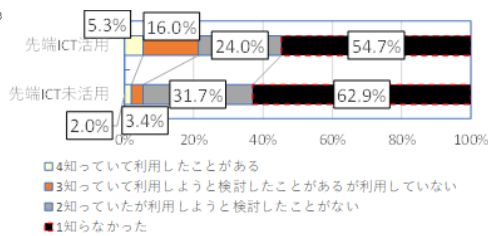


図7 先端ICT活用有無別の外部支援制度の認知・利用度

## ▼おわりに（まとめ・今後の展開）

1. 今後は、先端ICTを活用したい教職員が、大学や企業等の有識者と連携し、学校現場でのICT活用を支援する支援体制について検討する。
2. 具体的には、教職員の問題意識・ICT活用意欲（ニーズ）と民間企業や大学等が提供できるICT機器や情報システム等（シーズ）のマッチングを試行する。